

はじめに

木次小学校長 大島 悟

昨年度末、引継ぎに木次小学校を訪れた際に、今年度はJ A E Tの全国大会が木次中学校区の学校で行われることを、若槻校長先生から初めて伺いました。しかも、全体会場が木次小学校であり、雲南市全体の研究を会場校の校長、すなわち私が発表しなければならないとのこと。不安な思いをもちながら着任したのですが、当初抱いていた不安は杞憂に過ぎませんでした。

私も研究校といわれる学校に長らく勤務した経験があるのですが、学校における実践研究においては、子どもが育つ研究であること（めざす子ども像の設定）、実証的で地に足がついた研究であること（研究の視点と方策）、そして何らかの提案性があることが大切であると思っています。木次小学校で取り組まれていた研究は、研究の目的（めざす子ども像）が明確であること、それに迫るための研究の視点や方策が具体的かつ実証的であること、新学習指導要領で重視されている情報活用能力の育成を系統的に行っていることなど、公立小学校の研究として非常に優れた実践研究が展開されていました。その上に、内田研究主任を中心とした真面目で熱心な教職員と出会い、自分の発表はともかくとして、木次小学校の研究についてはきっと大丈夫と確信できるようになりました。

ただ、昨年度までの研究の積み上げがしっかりとあったとはいえ、J A E T全国大会に向けた授業づくりでは、大変苦勞しました。授業は生ものであり、子どもの実態が違えば、教材や学習過程を実態に合わせて工夫していく必要もあります。6月には中川一史先生に直接指導していただき、情報活用能力育成、I C Tを活用する必然性、映像情報と言語情報の使い分け、I C Tと非I C Tの使い分けなどの面から、I C T活用のポイント等について様々にご指導をいただきました。そして、授業改善に継続的に取り組みながら、10月のJ A E T全国大会ではこれまでの木次小学校の研究の成果を全国の先生方に発信することができました。また、I C Tの活用についての実践を「I C T活用実践記録」として蓄積したり、初任者研修の示範授業を公開授業として教員全員の学びの場にしたりするなど、1年間を通して研究実践を積み上げてきました。

この研究集録は、内田研究主任を中心に、今年度、本校の教職員全員で取り組んだ実践研究についてまとめたものです。今年度は、J A E T全国大会の成功など大きな成果があった年でした。J A E T全国大会の研究を打ち上げ花火で終わらせるのではなく、来年度の新学習指導要領全面実施に向け、さらに研鑽を積んでいきたいと思います。

最後になりましたが、熱心にご指導いただいた中川一史先生をはじめ、多くの指導主事の先生方には、本校の研究推進に際して大変お世話になりました。ありがとうございました。

お わ り に

「キャッチ・セレクト・ドウ」を合言葉に情報活用能力を高める研究を進めたのは、10年ほど前に飯南町で行われた県メディア研修大会でした。私は、教頭として初めて赴任し、主に運営関係を担当しましたが、「書画カメラ」や「電子黒板」「デジタル教科書」と初めて出会い、戸惑いを覚えたものです。「キャッチ・セレクト・ドウ」というのは、日本の子どもたちの PISA 型の読解力が他国に比べて低いということもあり、情報を目的に応じて集め、取捨選択し、活用する力を子どもたちにつけることをねらうものです。10年たち、教頭として最後の学校であるこの木次小学校でもまた、ICTの研究に参加させてもらうことは、何か不思議な巡り合わせを感じました。しかし、10年一昔といいますが、機器や先生方の技能は勿論、子どもたちが ICT 機器を巧みに使いこなす姿に情報活用能力の雲泥の差を感じました。天井に備え付けられたプロジェクター、書画カメラとパソコンが常設され、児童一人一人にタブレット端末がある。そして、それを使いこなす先生方に子どもたち。模造紙に手書きするために何時間もかけたことがボタン一つでできてしまう。子どもたちが必要とするときに教材や子どものノートをタイムリーに大きくすることができ、教師対児童の学びだけでなく、子ども同士が学びを深めていく姿に感動しました。

わたしが、新採のときに先輩から「これは、教師にとって大事な道具だからね。」と鉄筆セットをいただいたことがありました。一字一字真心を込めて書くという気持ちは、忘れたくはありませんが、今から思えば笑い話です。

終わりにになりましたが、本校の研究に対して温かいご支援とご指導をいただきました関係諸機関、多くの方々に、厚くお礼申し上げます。また、本校の研究の基盤となる ICT 機器の整備や全国レベルの講師を招いた研修をさせていただき教師力を高めてくださった前校長若槻徹先生に深く感謝いたします。

令和2年3月

教頭 藤原富貴子